



オムロン ベンチャーズ株式会社
代表取締役社長

井上 智子

本気で世界を変えていけると信じている 起業家と一緒に新しい世界を築いていきます。

オムロンは、深刻化・多様化する社会的課題を解決していくためには、既存の枠にとらわれないオープンイノベーションによる、新規事業の創出や既存の事業強化が大切であると考えています。そのために、これまでの事業では接点なかったような、独創的な技術やアイデアを持つベンチャー企業と連携を深めていくため、投資を一つの手段として、コーポレートベンチャーキャピタルを2014年7月に設立しました。それが「オムロン ベンチャーズ株式会社(以下OVC)」です。

OVCは設立以来6年間で15社のベンチャー企業に出資しました。初期に出資した農業関連のベンチャー「株式会社オーガニックnico」の事業アイデアや技術は、現在、中国でのアグリオートメーション事業に活かされ、オムロンの新規事業の創出につながっています。

「世界の最先端」を集めるために

私は、2018年4月にOVCの2代目の代表取締役社長として着任しました。2017年から始まった中期経営計画「VG2.0」では、ファクトリーオートメーションやヘルスケア、ソーシャルソリューションなどの注力ドメインを定め、オープンイノベーションによるソーシャルニーズの創造を加速し、将来の成長の種を仕込んでいくこととなりました。

そのためには従来以上に、世界にアンテナを張って、ま

だ芽の出ていない最先端の技術やビジネスの潮流を把握し続けていくことが大切となります。そこで、OVCでは2018年から投資のスタンスを大きく変更しました。それまでは、日本を中心に、投資時から事業部との何らかの連携ができるベンチャーに少額ずつ出資を行ってきました。これを、アメリカ、ヨーロッパ、イスラエルといった世界の最先端の技術やビジネスアイデアが集まる地域の、シードを含むアーリーステージのベンチャーに、ある程度まとまった額の出資を行うことにしたのです。

投資スタンスを変更した2018年から、アメリカ、イスラエル、イギリスのベンチャー企業7社に出資しました。いずれも独創的な技術やアイデアを持つ企業ばかりです。

例えば2019年10月に出資したアメリカの「リアルタイムロボティクス社」は、産業用ロボットのリアルタイムモーションプランニングの技術開発を行っています。この技術は、現在は何百時間とかかる、ロボットがさまざまな障害物との衝突を回避する動きをプログラミングする時間を大幅に短縮することができます。実用化されれば、ロボットの普及が一気に進む可能性があります。現在は複数の工場で、検証を進めているところです。また、ヘルスケア分野でも2020年3月に出資したシリコンバレーの「エアエックスヘルス社」は、アメリカで遠隔患者モニタリングの独創的なビジネスモデルを展開しています。遠隔診療はコロナで脚光を浴びていますが、それ以前か

ら患者にとっても医師にとっても病院にとっても必要とされてきました。同社のビジネスモデルは、今後の医療を革新していく可能性があります。

医療機器などの場合は特に、ひとつのベンチャーが開発から販売までを担うのは本当に難しい。ベンチャーが新しい技術を生み出し、それを現場へ接続して、企業がスケールアップを担うシステムがあることで、世の中に本当に必要な商品やサービスが広まっていく。OVCのようなコーポレートベンチャーキャピタルがあるからこそ生まれるイノベーションで、より多くの人が利益を享受できるようになるのではないかと、私は思っています。

ますます重要となるベンチャーへの出資の手は緩めない

コロナショックを経て、オムロンがこれまでバックキャストでとらえていた社会的課題は、ますます顕在化しています。特に、ロボットによる省人化や遠隔患者モニタリングのニーズの高まりは加速するでしょう。

私は、既成概念にとらわれず自由な発想で世界をとらえ、本気で世界を変えていけると信じる世界中の起業家と一緒に新しい世界を築いていきたいと考えています。特に、データがあふれる現在の社会において、データを資産として有効に活用し、病気にならない世界、人と機械が協調した世界、自律した個の最適化と全体最適が両立するような世界の実現に向けて、新たな価値創造を目指していきたいと考えています。

そのためにOVCは、将来のオムロンの成長の種につながる出資の手は緩めず、今後も積極的なベンチャーへの投資をこれからも継続していきます。

OVC出資実績

2015年5月： 株式会社プラントライフシステムズ(日本：栽培制御システム)
2015年6月： 株式会社三次元メディア(日本：三次元認識技術)
2015年7月： 株式会社オーガニックnico(日本：有機農法野菜の生産技術)
2016年3月： ライフロボティクス株式会社(日本：協働型ロボット)
2016年10月： 株式会社エクスビジョン(日本：高速ビジョン技術)
2017年5月： ベジタリア株式会社(日本：農業IoT事業)
2017年6月： ラーク テクノロジー社
(アメリカ：生活習慣改善に向けた健康管理アプリケーション)
2017年12月： 株式会社モフィリア(日本：バイオメトリクス事業)
2018年10月： デ・アイデンティフィケーション社
(イスラエル：顔画像に関するプライバシー保護技術)
2018年11月： コネクテッド シグナル社
(アメリカ：車載向けリアルタイム信号予測アルゴリズム)
2019年5月： セラニカ バイオ・エレクトロニクス社
(イスラエル：偏頭痛治療向けの新しいニューロモデュレーションデバイス)
2019年6月： ペイシェント ノウ ベスト社(イギリス：医療データ共有システム)
2019年10月： リアルタイム ロボティクス社
(アメリカ：産業用ロボットのリアルタイムモーションプランニング技術)
2020年3月： アヴェイルズ メディカル社(アメリカ：感染症検査機器)
2020年3月： エアエックスヘルス社(アメリカ：遠隔患者モニタリング)

interview



ピーター・ハワード氏
リアルタイム ロボティクス社 社長 CEO

リアルタイム ロボティクス社は、ロボットのアプリケーションを劇的にシンプルにそしてコストを削減できる「共通のコア」となる画期的な技術を提供することで、ロボットオートメーションの大波の礎となることを目指しています。世界有数のオートメーション企業であるオムロンには、私たちの製品やビジョンを補完する素晴らしい製品ラインがあります。

オムロン ベンチャーズは、私たちのバリュープロポジション(価値提案)を理解して、私たちが必要とする適切なつながりをオムロン内に築けるように支援してくれています。私たちは、ビジョンを実現するために引き続きオムロン ベンチャーズと手を取り合って歩んでいきたいと思っています。



ビジェイ・ラージャシェーカル氏
エアエックスヘルス社 CEO

エアエックスヘルス社は、医療チームが慢性疾患や新型コロナウイルス感染症の患者などのリスクの高い患者の健康状態をトリアージ(リスクに応じて優先順位付け)し、対処することができるスケーラブルな手段を生み出しています。オムロンの医療機器とエアエックスヘルスのソフトウェア・遠隔診療プラットフォームとを連携させることにより、医療チームは遠隔で患者をモニタリングし、劇的に医療アウトカムを改善することが可能となります。私たちは、オムロン ベンチャーズの熱意、そしてシリコンバレーの著名なベンチャーキャピタルとも引けをとらない意思決定スピードに感銘を受けました。私たちは、世界中に何百万人という患者の健康状態を改善するという共通のビジョンの実現に向けて、オムロン ベンチャーズとともに歩んでいくことをとても楽しみにしています。